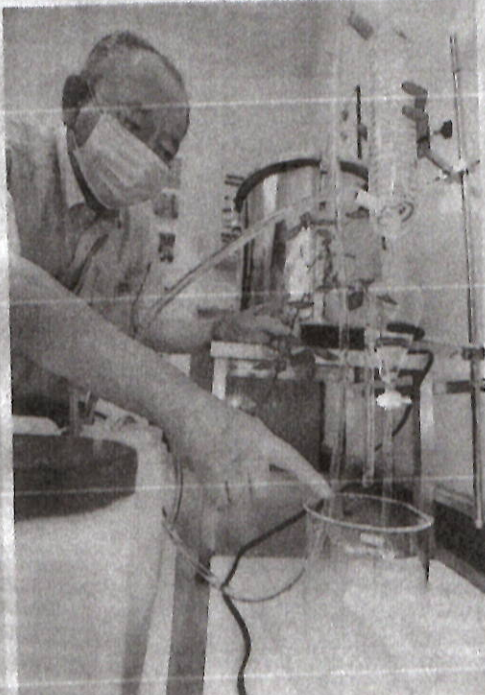


6/14 信濃毎日記事 4

商品化目指せ

飯島のクロモジ



クロモジ(奥)のエキスを抽出する蒸留装置を指さす会員

飯島町の町有林の整備、活用を目指す住民らでつくるグループ「いいじま森の会」が7月上旬、町内の森に自生する低木クロモジの成分を使った商品を発売する。「森のハーブ」といわれる爽やかな香りを生かし、蒸気で抽出したオイルを香り付けに使った除菌スプレーや葉を活用した茶などを準備。拠点にする町内の農業体験施設で13日、会員が製造作業をした。

爽やかな香り 除菌スプレーや茶に

住民ら、来月販売へ「森の恵み 知って」

細断した枝や葉を蒸し、蒸気を冷やすと、香りのある透明の液と、上澄みの部分にわずかなオイルが抽出された。2時間以上かけてクロモジ4から抽出できるオイルは約10リットル。今回はオイルをアルコールに混ぜた除菌スプレーや蒸留液を混ぜた芳香水、葉を葉巻に頼んで焙煎したティーバッグを商品化する。

同会は昨年発足した「飯島の森保全会」が改称。町民ら約70人が町有林を整備する中で下草として自生するクロモジに着目し、株を移植して育てている。会長の福田富雄さん(64)は「森の恵みを知ってもらい、健康づくりや環境教育、観光など新しい森の活用策を探りたい」と話した。

クロモジ関連商品は町内2カ所の「道の駅」などで販売を予定している。

飯島町産のクロモジ原料 アルコール除菌スプレー開発

いいじま森の会 来月初旬に販売開始

飯島町の里山や森林資源を保全・再生し、地域活性化につなげる活動に取り組んでいる「いいじま森の会」が、町内産のクロモジを原料に使用したアルコール除菌スプレーを開発した。7月初旬に販売



飯島町産のクロモジを原料に使用し、「いいじま森の会」が7月に売り出す商品。背景の木はクロモジ

を始める。新型コロナウイルスの感染予防に役立ててもらいたいと考えた。

クロモジは日本固有の香木。町内では、北西部にある「町民の森」から牟山(1542)にかけて群生している。森の会によると、除菌スプレーの製造過程に使われた例は「他にはない」。爽やかな香りがし、リラックス効果や消臭効果があるという。

福田富雄会長(64)は同町七久保に13日、森の会が拠点を置く町内の交流施設「アグリネーチャー いいじま」で開いた。スプレーと芳香水は価格未定。芳香水は1本100リットル。ティーバッグは1セット

を始める。新製品「クロモジ」の発表会。1本5リットルの感染予防に役立ててもらいたいと考えた。

クロモジは日本固有の香木。町内では、北西部にある「町民の森」から牟山(1542)にかけて群生している。森の会によると、除菌スプレーの製造過程に使われた例は「他にはない」。爽やかな香りがし、リラックス効果や消臭効果があるという。

福田富雄会長(64)は同町七久保に13日、森の会が拠点を置く町内の交流施設「アグリネーチャー いいじま」で開いた。スプレーと芳香水は価格未定。芳香水は1本100リットル。ティーバッグは1セット

6個入りで600円(税込)販売する。問い合わせは福田み。いずれも町内にある「道の駅」や通販サイトなどで。026531110。 (松井崇)

6/14 長野日報記事